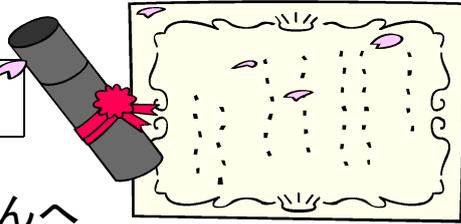


銚子七中
学校だより**坂東太郎**令和3年3月13日
第35号

校長閑話

卒業生の皆さんへ



COUNT DOWN 開校まであと 19日

祝 卒業

今日は皆さんが義務教育9年間の全課程を終える「晴れの日」です。実におめでたい、晴れ晴れしい日です。人生の中で、このような日はそう何度もあるものではありません。そして、主役は卒業生の皆さん一人一人です。そんなすばらしい日をあなたたちと一緒に迎えられることをとともうれしく思います。

しかしながら、今年も新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、大変簡素な形での卒業式となりました。主催をする私たちにとっては、とても辛く、残念でなりません。

そこで、本校最後の卒業式ということから、今日のために君たちを心から祝福したい、少しでも通常の卒業式に近づけたいという強い願いから、心を込めて在校生と職員で会場準備をさせていただきました。どうか私たちの真心を受け取ってもらい、重厚な式と感じ取ってもらえれば嬉しく思います。

さて今日は卒業式を迎える皆さんのほなむけに、一つお話をいたします。聖路加国際病院の名誉院長の日野原 重明先生は、100歳を超え現役の医師として活躍されました。先生は、小学生の子どもたちに命の授業を開催されていましたが、その中で先生は子どもたちに「命って何だろう？」といつも問いかけていました。すると自らの胸を指し「心臓」と答える姿に、先生は「心臓は命ではありません。心臓は単なるポンプです。命は目に見えないもので、確かにあるものだけれども目には見えません。命とは、私たちみんなが持っている時間の証です。」とおっしゃっていました。

命も時間も目には見えないものですが、活用することができます。時間を使うことで命が形になります。そして、人が時間をかけ何かを考えたり、何かを作ったり、または誰か他の人のために何かを行う時間として使うことで、そこに、新しいアイデア生まれたり、新たな道具や仕組みができあがったり、さらには誰かの笑顔を見ることができます。そこに、時間が目に見える形になります。そして、人間は限られた命、時間を持つ生き物です。しかし、残念なことに昨今のニュースではコロナウイルス感染症のために多くの人々の命が奪われる出来事を耳にします。人の命がなくなることは、そこで時間が止まってしまうこと、その後になんか得たはずの時間が奪われてしまうことです。その人に与えられていた時間が無くなってしまいます。このことは、誰でもどんな人でも辛く悲しいことです。

では、命を時間と考えた場合はどうでしょうか。無駄な時間の使い方をしてしまうことは、時間をなくしてしまうこと、奪われてしまうことと思えるのでしょうか。「まあ、少しの時間ならいいや」と、思ってしまうことがあります。もう一度、時間を命と言い換えてみた場合、どのように感じますか？限りある時間、いえ限りある命を無駄にしてしまうとすると、時間がとっても大切なことと思えるのではないのでしょうか。

時間も命も共に限りあるものです。その限りある時間がただ過ぎ去ってしまうことは、二度と戻ることのない、二度と手にすることのない、皆さんの大切なものが失われることとなります。大切な自分の物が失われた時、皆さんはとても悲しがり、悔しがるのではないのでしょうか？

卒業生の皆さんが過ごした3年間という時間は、確かに大切な命を使った3年間でした。だからこそ、ここは大きな思い出と密度の濃い結びつきがあったのだと思います。これからの人生でも、自分や誰の命も時間も、何物にも代えられないものとして大切にしてください。なぜなら命もそして時間も、人間に与えられた最も貴重なものだからです。

そして、この母校は無くなりますが心の中で皆さんの未来を支えていく強力なサポーターであり続けることを約束します。ですから本校最後の卒業生としての誇りを持ち、自信をもって堂々と、そして時間を有効に使い、輝かしい未来を歩んでいってください。皆さんのこれからの未来に期待をしています。

